

長編小説「こころ」(夏目漱石)の学習指導

——感想文を中心としたグループ学習——

平野嘉久子

一、はじめに

長編小説の部分的収録は、文学作品の教材化においていくつつかの問題点をかかえながら、短編小説・中編小説では代えられないその特質から、どの出版社の教科書にも必ずある。長編小説を抄録した教材に出会うたび、こうした教材を、限られた時間で、長編小説として取り扱うにはどう工夫すればよいかに、当惑している。以下は、夏目漱石の長編作品「こころ」を三年生の二学期に扱った記録である。(使用教科書は旺文社版「現代国語3」収録部分は、下編「先生と遺書」の抄出である。)

二、授業のあらまし

当初の計画では、学習の手引(資料2参照)に記した通り、八時間を配当していたが、実質的には十時間、二学期の前半(中間考査まで)をすべて使うことになった。なお、「こころ」全編通読と感想文記述は夏休みの課題(資料1参照)としたので、教室での学習は、級友の感想文を通読することから始めた。授業は一週二時間で、同一日に連続してとってあり、一週一回の割であるが、体育大会・文化祭など秋の学校行事のある時期で、学級によっては二週一回となったところもある。

第一・二時 級友の感想文の通読

はじめに学習の手引(資料2参照)を読み、次に級友(44と46名)の感想文プリント(提出されたボールペン原紙を授業者が当該学級の授業時までに印刷)をもれなく集め整えてから、通読にはいる。メモ用紙は一人五枚宛当初配布、追加は自由に取れるよう別置。46人もの感想文であるから、授業時間内に読了することはむづかしく、大半は家庭学習にまわされ、従ってメモ用紙の提出は次時前日までとした。

第三・四時 感想文集の目次を決めるためのグループによる話しあ

はじめに四人一組のグループを作成(席の近い者同士、在籍数の都合で五人一組のグループが一〜二できた学級もある)。学習の手引(資料3参照)を読んだ後、作業をすすめる。作業の状況はグループの報告書(形式は資料4参照)としてまとめた。なお前日までに提出されたメモは、授業者一読ののち、それぞれの宛名の者に手交した。そのうち、全体に投げかけてよいと思われるもの(主に学習の手引のイ・オにあたる)は、「提出された疑問・問題」として、学習の手引に記載しておき、話しあいの手がかりにすることができるようにした。

第五・六時 目次決定のためのクラス討議

各グループ2分以内で意見発表。殆んどが発表資料として自グループの案による目次を用意したので、大まかな決定は各学級とも授業時間内にできた。細部のくいちがいは採用されたグループを中心として類似のグループの代表数名に調整がまかされた。なお、どうならべるかを一つ一つ決めてゆくためにはどうしても感想文をいねいに読まねばならず、その過程ですぐれたもののいくつかは印象に残ったものと見え、ベスト3は大半のグループで決まっており、この発表も時間内に済ませることができた。従って、次時はクラス決定にすぐはいることができるよう、他グループの意見を参考にし、各グループでの再考を課しておいた。

第七時 感想文のベスト3選出のための話しあい。

各グループに支持されたものは各クラスとも一篇程度であったため、支持グループの多いもの五七篇にしぼって、それぞれ支持・不支持の弁を述べさせ、決定はグループの報告書による多数決とした。生徒の好みが、とかく生硬な、難解な、気取った表現に向きがちであるように見うけられたので、候補作のいくつかを授業者が音読してきかせ、耳からの印象という視点にも気づかせるようにした。

第八時 アンケート記入

個々の生徒の学習状況・授業受容状況を把握するため「『この』学習を終えて」(資料5参照)を書かせた。

第九・十時 まとめ

アンケートから把握される学習状況について感想を述べるととも

に、第11項にあげられたものを「なお残る疑問あれこれ」(資料6参照)としてプリントし、生徒の読み落としていた部分を本文から指摘しながら、授業者はどう考えているかを述べてまとめとした。たとえば、静について(女子校であるためか、とくに生徒の関心が彼女に向く面が見られた)、第十八章冒頭の「私は奥さんの理解力に感心した。奥さんの態度が舊式の日本の女らしくない所も私の注意に一種の刺戟を與へた。それで奥さんは其頃流行り始めた所謂新しい言葉などは殆んど使はなかった。」(岩波書店刊新書判「漱石全集」第十二卷39下)、あるいは「妻はある時、男の心と女の心とは何うしてもびたりと一つになれないものだらうかと云ひました。」(同前29上)という記述は、静という、むしろ精神的に自立した女性を語っているのではないか。また、「稚葎は新らしい菓子折に入れてあつた。郷寧に礼を述べた奥さんは、次の間へ立つ時、其折を持って見て、軽いのに驚かされたのか、「こりゃ何のお菓子」と聞いた。奥さんは懇意になると、斯んな所に極めて淡泊な小供らしい心を見せた。」(同前52上)といった描写には、静の人柄が出ているし、「奥さんは下女を呼んで食事や片付けさせた後へ、改めてアイスクリームと水菓子を運ばせた。「是は宅で拵えたのよ」用のない奥さんには、手製のアイスクリームを客に振舞ふだけの餘裕があると見えた。」(同前71上)という文からも、電気冷蔵庫のない時代、冷蔵庫そのものが一般家庭には珍しい時代に、アイスクリームを手作りできるという、ある水準がうかがわれるのではないかといったことを注意し、読むほどに新たな発見があることを語るなど。

三 授業のねらいと工夫

質・量ともに重い「こころ」を、

1 生徒全員に

2 興味をもって

3 二度・三度とくりかえし

通読させることを第一のねらいとした。これによって、長編小説教材の学習指導の目標の大半は達せられるのではないかと考えたのである。そのために、

1 読むことの誘いかけに留意した。

「こころ」刊行時の広告文を引用するとともに、テーマについて、自殺について、愛について、生徒の主たる関心事になると思われることをあらかじめ示すことにした。(資料1参照)

2 読みを深くさせるよう留意した。

感想文をポールベン原紙に書かせることにより、印刷されること、級友全員に読まれることを意識させ、自分なりの感想をしっかりとめめる意欲を持たせようとした。また、ペンネームを使用させることにより、本音の感想を出させようとした。また、解説文なども参考にして、くりかえし読み味わった上でまとめよう示唆した(資料1参照)。授業の中心となった目次決定、ベスト3選出の作業は、級友の感想文を本気で読ませるとともに、自己と異なる読みの視点に気づかせることによる読みの深まりをねらったものである。

3 異なる視点からくりかえし読ませるように留意した。

級友の感想文を分析させる(目次決定・ベスト3選出の基礎作業

(ことにより、決定・支持の根拠をしっかりとくりかえし「こころ」にもどるようにさせた。

四、評価

二学期前半を使つての授業であり、この学習を50点満点で評価することにした。その配点は次の通りである。生徒には、学期当初、グループ評価においてはグループの四人(五人)に同一の評点が与えられることも含め、このことを知らせた。

1 感想文——個人評価

10点満点・平均5点・最高8点(資料7参照)・最低1点

ポールベン原紙の台紙に文章・表記等の修正を施し、採点して、本人に返却した。

2 発表——グループ評価

5点満点・平均3.9点・最高5点・最低2点

各グループの発表者は一人であるが、その一人の得点と同じ点を他の三人にも配点した。

3 発表資料——グループ評価

5点満点・平均3.2点・最高5点(資料8参照)・最低1点

当該授業時間終了時に発表の講評とともに良い資料の良い点を指摘することにより、各自のグループの不備に気づかせるようにした。

4 報告——グループ評価

15点満点(1回5点3回報告)・平均11.2点・最高15点(資料9参

照)・最低8点

報告書は採点後減点理由を付して返却したので、3回目には殆ん

どのグループに満点が与えられた。

5 アンケート——個人評価

10点満点・平均3.3点・最高7点(資料10参照)・最低1点

アンケート20項目(資料5参照)のうち、評価の対象にしたのは5・6・7・8・9・10・15・17・18・20の10項目である。各項目において、本人の事実にもとづいた自覚的な返答になっているかどうかの評価の主眼をおいた。

6 参加の態度——個人評価

5点満点・平均4.0点・最高5点・最低3点

各自の役割を十分に自覚して果たしているか、話しあいへの参加の態度はよいか、感想文集の保管状態に工夫があるかなど、主として授業者の観察によって評価した。

五、反省

長編小説教材を抄録の学習に終わらせず、全編を通じての学習を生徒全員にさせることをねらいとした計画であったが、グループ学習としたこと、作業が生徒にとって目新しいものであったことから、生徒の関心が授業者の意図と若干ずれたことが指摘される。それはアンケートの評価点の低いことにあらわれているし、また、なお残る疑問として提出された問題(資料6参照)が、若干の深まりは見られるものの、当初提出された問題(資料3参照)と類似であることに明らかである。つまり、生徒は、期待したほどにはくつきえし読んでくれず、また、グループで読み深めるまでには至らなかったのである。ただ問題を自分のこととして、それなりに一心に

考え、解決を求めようとしたとは言えるように思う。なによりも興味を持って授業に参加したことは、玉石混濁の感想文、同じような感想文(読みの誘いかけ——資料6——が逆にある制限を生んだ)うで、類似の問題をとりあげた文章が多かった)を一心に読んでいたし、行事の多い時期だったのに、授業時間内にできなかったところを、早朝や放課後に、三々五々集まっては討議を重ねている風景が見られたことから言えると思う。感想文集の表紙も、漱石の写真かと思うようなものを刷りあげた学級、漱石全集初版本の装丁を模写した学級、ハート型の半分に天使を半分に悪魔を描いた学級、心を抽象化した絵を刷った学級など、それぞれに工夫されたし、決定された目次も頁数を記して刷るものが出るし、せっかくだからと漱石の年譜を加えた学級も出るなど、授業としては、始終だれることなく活発にすんだ。(評価されているという意識が働いたためとも考えられる。)ただ、予想されたことではあるが、本文をじっくり読み解くことは殆んどできなかったのではないかと思う。予定になかった第九・十時を加えざるを得なかった所以である。

付記

これは昭和五十二年度二学期の記録である。いささか旧年に属すと躊躇したのであるが、漱石は、野地潤家先生にご指導を仰いだ卒業論文で、私が取り組んだ作家であり、また、この「国語教育研究」が野地潤家先生のお祝いの号でもあるところから、あえて発表させていただいた。例によって、これもまた野地潤家先生のお励ましをいただいでやつとまとめることができたものである。

資料 1

「こころ」(夏目漱石)を味読しよう

三年夏休み課題

青春の古典ともいえる「こころ」をじっくり読んで、各自の人間観を深めよう。

1 夏目漱石「こころ」を入手する。(自宅にないものはこの際購入すること)

入手しやすいもの

岩波文庫(緑11-1)

解説 小宮豊隆

三〇〇円

角川文庫(1-12)

吉田精一

二二〇円

新潮文庫(草10-1N)

木多頭彰

二〇〇円

講談社文庫(A4)

江藤 淳

二〇〇円

旺文社文庫(2-4)

稲垣達郎

年譜 二二〇円

堀秀 彦

。夏目漱石全集 集英社(第六卷) 春陽堂書店

(第二卷) 筑摩書房(第六卷) 岩波書店(第六卷)

。他に日本文学全集のうち夏目漱石集もみてみる。

2 通読

3 感想・疑問点・友人と話しあってみたいことのメモ

4 もう一度読んでみよう。

「こころ」が大正三年に初めて刊行された時の広告文に「自己の心を捕へんと欲する人々に、人間の心を捕へたる此作物を奨む」とあったそうです。この本の最大のテーマは書名通り、人間の心

です。とくに利己心と道義心(良心)です。「こころ」を味読することによって、だれの心にもある利己心と向きあってみよう。

さらに、「こころ」には、K・乃木將軍・先生の三つの自殺が描かれています。それぞれの死をどう評価しますか。(乃木將軍の殉死や明治の精神について、どんな本を見るときよいでしょうか)さて、先生の自殺は肯定できましようか。否定するならば、先生

はどのように生きるべきであったと提言したらよいでしょう。

また「とにかく恋は罪悪ですよ」という、ショックな先生のことばがあります。愛、愛情について、冷静に考えてみたいところですよ。

4¹ 巻末の解説も読んでみよう。どういうところを読みとるとよいのか教えられます。鶴呑みにするのでなく、自分の読みとりと比較して読むことが大切です。

4² 余裕があれば「三四郎」「それから」「門」、また「行人」「彼岸過迄」「道草」といった他の作品を読んでみましょう。図書館にあります。

4³ 漱石研究の参考文献が図書館にあります。この機会に読んでみよう。

4⁴ 武者小路実篤「友情」、長与善郎「竹沢先生と云ふ人」を読みくらべても面白いでしょう。

5 読むほどにさまざまな思いがわくでしょう。億劫がらずに、どんどんメモしてゆきます。カードふうにとってゆくと便利です。

6 メモを眺めながら、自分なりの読みとりをまとめましょう。

7 まとまったところで、それをボールペン原紙に書きます。二字

期に皆の感想をまとめて読むことができるように。

◎ボールペン原紙の書き方

1 手持のボールペンで、ふつうに書きます。下の白紙に出るよう
に、印刷したときに出ます。2 クラスの人全員のを綴じた
ときに読みやすいように次の約束を。

ア 上下2マスあける。中央二マスあける。左右二マスあける。
折目左右三マスあける。

イ 1行おきに書く(18行)

ウ はじめに題名と氏名を書く。氏名はペンネームでもよい(こ
の機会にペンネームを作るのも楽しい)。ただし、その場合、

本名を下の白紙に赤で書く。
エ 題名は右から4マス目、一マスあけて氏名、二マスあけて本
文を書きはじめる。

オ 書き損じたところはそのままにしてつづけて下さい。下の白
紙に赤でしるしをつけ、そばに正しい文字をそえてください。

カ 提出期限九月一日。厳守。すぐの授業に使用します。

資料 2 (洋紙半切)

三年現代国語 「こころ」 学習の手引(2)

1、クラスメートの感想文を、たしかに読もう。(第一時・第二時)

ア、自分と同じで、大いに共鳴するところ

イ、自分と反対で、大いに論争したいところ

ウ、自分の考えていなかった指摘

エ、誤解だと思われるので、注意したいところ

オ、同じ疑問を持つので、討議したいところ
と、サイドラインを加えながら……次の作業も心にとめて。

() さんの右(左)、上(下)段ははじめから() 行あたりの については() より

() 内ペンネームでよい。

イ、エ、オについてはメモ用紙に書いて提出のこと。一枚
一件。

2、グループで討議しよう。(第三・四時)

クラス分、みんなで共通の順序で並べたい。どう並べるとよい
か考えよう。

話しあいの前に、グループ内の役割分担をさめる。(司会1、

記録1、発表1、資料作成1)

3、クラスで討議しよう。(第五・六時)

グループの発表を聞き、比較検討する。

決定したら、みんなでページをうとう。目次作成者は?

4、グループで討議しよう。(第四・七時)

クラスのベスト3選出。(役割分担変更も可)

5、クラスで討議しよう。(第六・八時)

グループの発表を聞いて、比較検討の上決定へ。

◎クラスメートの感想文を手にしたら、一枚くへ二つ折りに、
紛失しないように気をつけて。目次ができたらとじること

しよう。

- 。第二章の位置づけについて
- 。明治の精神について 殉死について
- 。人間について
- 。「友情」(実篤)との対比について
- 。「こころ」という題名について

資料 4 (洋紙半切)

グループ討議報告書 No.

- () グループ (グループ名は発表者名とする)
- () 司会者 () 記録者 ()
- () 発表者 () 資料作成者 ()
- 1 本時のテーマ
- 2 討議の進行状況
- 3 討議の中心
- 4 討議の要約(発表内容に通じる)
- 5 討議の反省

(提出期限 授業のあった翌日昼休まで)

資料 5 (洋紙一枚)

(原文よこ書き)

「こころ」学習を終えて

組 番 氏名 ()

- 1 あなたの読んだ「こころ」は、所持していたものですか、新規購入ですか。()
- 2 それはどの出版社のものですか。()
- 3 その選択の理由は()
- 4 それを何回読みましたか。 以前に()回 今度()回
- 5 今回をきっかけにして、漱石の他の作品を読みましたか。読んだ人はその書名と簡単な感想を記しなさい。
- 6 「こころ」に関連して、他の書物を読みましたか。読んだ人はその書名と筆者を記しなさい。
- 7 あなたはこの「こころ」に興味がもてましたか、もてませんでしたか。理由も付して答えなさい。
- 8 漱石はこの「こころ」で、何を言おうとしたのだと思いますか。
- 9 漱石という作家はどんな人だと思いますか。
- 10 これまでにあなたの読んだ作家の文章に比較して、漱石の文章についてあなたの気づいたこと、感じたことを書きなさい。

11 「「ころ」を読んで、今なお、不審な点や箇所があれば記しなさい。

12 あなたはペンネームを使いましたか。使った人は、その由来を教えてください。

ペンネーム ()
由来 ()

13 クラスメートの感想文を読んで、どう思いましたか。

14 今回のような課題の出し方(夏休み前のプリント)をどう思いますか。

15 今回のような学習形態をどう思いますか。その利点、欠点を簡条書きしなさい。

16 今回のグループでのあなたの役割は何でしたか。()

17 その役割を果たすについてどんな点に気がつかれましたか。

18 あなたのグループのよかった点、反省すべき点をあげなさい。

19 中間考査をしないことについての考えを述べてください。

20 この授業で学習したこと(教えられたこと)を簡条書きにしなさい。

資料 6 (洋紙半切)

三年 現代国語「ころ」学習資料

なお残る疑問あれこれ

1 Kの死の本当の理由は何か。(失恋、友の裏切、自己への絶望)

2 Kの遺書はすべてを黙認した上でのものだったのかどうか。

(Kが悟っていたからか、精いっぱい思いやりか)

3 「もっと早く死ぬべきだったのになぜ今まで生きていたのか」というKの考え

4 先生の死の本当の理由は何か

5 先生は奥さんに打ちあけるべきだったのか、打ちあけるべきでなかったのか。

6 先生はなぜ急に自殺する気になったのか。(昔から思いつけながら実行しなかったのに)

7 奥さんに打ちあけなかったのは先生のエゴイズムか。

8 先生がKの遺書を発見して読み、またそれを人の目につくようにして置いたのはなぜか。(人間はある場合、あんなことがでさるのか)

9 先生とKの仲はどうだったのか。(「よそよそしい頭文字などとても使う気にならない」の部分)

10 静はKの自殺に先生や自分がからんでいるとは少しも感じなかったのか。

11 静は先生とK(生きていたら)のどちらを愛していたのか。

12 静は打ちあけられた方が幸せか、打ちあけられない方が幸せか

13 ひとり残された静はどう生きてゆくのか。

14 私は先生になぜあれほどひかれたのか。

(出会い、親密さ、危篤の父をおいての上京)

15 本当に「恋は罪悪」なのか。

16 人間は信じていた人に裏切られたら、その他いっさいのものが信じられなくなるものでしょうか。

17 「明治の精神」「明治の精神に殉死する」とは何か、どういうことか。

18 自分に正直に生きることは利己心か。

19 私、先生、Kになぜ名前をつけなかったか。

(静、光と名をつけた人もあるのに)

20 漱石に「こころ」を書かせたきっかけは何か。

漱石先生？

資料 7

『こころ』と私、その試論

ていたむ

小説を読むと常に、その場面場面がBGMを伴った色つきの映像として、脳裏に写し出されるのだけれども、今度の場合はちょっとそういうわけにはいかなかった。画面はあっても白黒で、しかもどこか色の冴えない白黒のトーンである。それから、ピタッとときまるBGMがない。頭の中には鳴ってこない。逆に言うならへたに音楽しない方がいいようである。そしてそういう昔風なBGMのない白黒の無声映画を観るということは、日頃カラー画像に慣れ切っして

まった私にとって、おそらく新鮮である。しかもさらに面白いことに、登場人物の声を聞こうとしても、たった二種の声―男声と女声―で、事足りるのである。私にも先生にもKにも同じ声、先生の妻にも私の母は同じ声。けれども私は一種類でも少ないとは思わない。そしてそのただひとつの声の主は、夏目漱石なのである。

作者の意志とは異なるかもしれないが、この作品は読者の感情的な介入を、自ずと拒否したようなところがある。たとえば、読者である私が登場人物の特定の一人にイメージをダブらせたり、また、好感を抱いたり、というようなことはない。拒否を受けるために、そこに距離ができてしまい、さめた目で見ることができる。このことは、重大だと思ふ。これにより、作者の意図が明確につたわってくる。あまりに直接的で、荘厳で、どこか宗教的な意図思想が、小説というスタイルを用いて表わされたということは興味深い。では、なぜ小説というスタイルをとったのだろうか、小説のある一面面を取り出して見ると、これはわりあい日常茶飯時の事柄が多い。例えば自殺などのように、確実にありそうなことの描写の基にある思想というものは、読者をひきつけ説得するからだ。確かさに裏打ちされたイデオロギーというものは強い。だから私は、修行によって頭の中でひねり出した坊主の説法よりも、こうした小説の作者のもつ思想を、そして何よりも自分の今までの経験で培われたであろう、自己の思想を一番たよっている。

そういう自己の思想に執着することによって、エゴが生まれてしまう。この「こころ」はそうしたエゴを、否認なしに見せつけてく

る。また先生の自殺からは、人間の良心について教えられる。『先生』が自殺しなければ、現代の人間のように、もっと生きることに長けていてするがしければ、この小説は単にエゴの見せつけで終っていたであろうに、『先生』は自殺する。欲張りな漱石は、良心の問題についてまでも提起しているのである。エゴと良心という、ある意味での二面性を持ったこの作品を読むと、目の前で、一人の人間、もしくは何か観念的な物体が、たてまつぶたつに切られたような気になる。観念的な物体と、あいまいな言葉でごまかしたのが、実際、私にもそれが何なのかわからない。ただ、例えば竹のスパッと割れる小気味よさではなく、やや積然としない切断のされ方のようである。積然としないと言ったのは、実は私の逃げ口実で、本当は、積然すぎるほど積々然々としているのであるが。人間のいやなところを見せられたため、私は逃げた。痛い所に触れなくてもいいじゃないかと言いたい。心のどこかに意図的に押し込んでいたもの、忘れていてちょうど良かったものを、なにもわざわざ引き出して来ないでもいいじゃないか。

私はしばらくは、人間の観察を怠らないだろう。あるいは批判的であるかもしれない。

ところで、漱石のようにしっかりと自分の思想を持ち、それを表現できる言葉を持ち、何かの媒体を通して、それを発表できる場所を持っている人はいいなと思う。

そういったものを何も持たない私は漱石にくらべてまだまだ小さい。

資料 8

三年現代国語発表資料

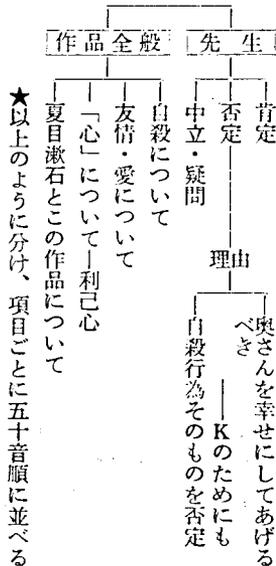
No. 1

10月14日 第5・6時限 三ノ二

永富グループ

発表司会
記録資料
YKIN

並べ方の観点



目次

1 先生の自殺について

♡肯定

..... 岩崎百合子

薛朶 慧

鈴木由美

本田章子

♡否定

奥さんのために..... 秋葉いく

自殺行為否定のため……………

伊田由美子
開道裕子
篠原 潤
西野秀美
ヒデキの妻
魔野ユリ
大和卑弥呼
川端踊子
香月美和
C 8 5 4号
遙 愛子
翠 蘭苑
亜斗 夢
あべりつこ
荒木光子
大鳥 雛
丘 美佐子
すたありんご
谷川 俊
西本厚子
結城真美
杉浦 葵
莊 千尋

♡中立・疑問……………

♡友情・愛情について……………

平井素子
名なし

♡「心」について……………

田淵由美子
はとぼっぼ
藤野雅子
真山玖美
犬飼郎子
加納あや
北島秋子
杉野叶子
日向 葵
星野きらら
山上猿子
夢 小 町
片桐ちえ子
麻乃星子

資料 9

♡夏目漱石について……………

2 作品全般について

♡自殺について……………

グループ討議報告書の³ (提出は授業のあった翌日の昼休みまでに)

(N)グループ (グループ名は発表者名とする)

司会者 (K) 記録者 (H)
発表者 (N) 資料作成者 (W・F)

10/11(火)~10/13(木)朝・昼休み放課後

1 本時のテーマ 中村班のベスト3選出

2 討議の進行状況

。ベスト3選出にあたり項目をいくつか上げ、その中から適切なものを選び

。項目別ベスト3決定

。それ以上がった感想の中から3つをわが班のベスト3に決定

3 討議の中心

。どういふ項目を上げればわがクラスの感想文の個性を充分引きだすことが出来るかを念頭におき、また、選ばれた人たちが傷つかないように、悪いことのベスト3は選ばないことにした。

。いろいろな項目を上げたが、うわべのよさだけに引かれないうに常に内容のよさに集中するようにした。

4 討議の要約(発表内容に通じる)

(項目)

第一次決定 (3人ずつ選出)

- 。風変わりな感想(異色) ↑
- 。ペンネームのセンス
- 。文字の美しいもの
- 。作品理解のふかいもの
- 。表記方法のすぐれているもの
- 。読みとりやすい感想
- 。内容が充実している
- 。感情表現のこっけいなもの

第二次(最終決定)

- この中から
- 感想文としてもつ
- ある大切な要素で
- 文章がまとまっ
- ている
- 意見をはっきり
- のべている
- 読みとりやすい
- という内容をもつ
- ものをわが班のベ
- スト3に決定する

。あらずし書きで感想をのべてないもの

。一定の意見を持たず、意見がころころ変わっているもの

止

。文の長いもの、短いもの(選んでも意味がないので)

。題名のおもしろいもの(みんなたいして変わりばえ

しないから)

5 討議の反省

。朝は遅れてくる人あり、昼休みは雑用、放課後は、周囲がさわがしい、仲間のうち二人は表紙作りなどで、なかなか仲間がそろわずに、手間のかかる討議だった。

。みんなの感想はそれぞれ、長所・短所があり、前半を読んでも「すばらしい。」と決定しかけて、後半でやっぱりやめたり、また反対のものがあつたりで、三つに決定してしまうのはむずかしかつた。

十月十五日(土)教室 一・二時限

グループ討議報告書 No. 3 (提出は授業のあった翌日の昼休みまでに)

(N)グループ (グループ名は発表者名とする)

司会者 (K) 記録者 (A)

発表者 (N) 資料作成者 (T)

1 本時のテーマ (私達のクラスのベスト3を選出する。)

2 討議の進行状況

個人個人がよいと思う作品を数編あげてみる。——あげてみた作品のうちで検討する。——検討した結果、3編前後にしぼ

てみる。

3 討議の中心——選出の基準をどこにおくか、どの作品を選出するか。

どれくらい内容を理解し、書かれているか。

どれが印象に残ったか。

表現に工夫がみられるか。

自分の意見をはっきり持っているか。

。選出の基準とする。

。個人個人が選出した作品を全員で検討し選出する。

4 討議の要約（発表内容に通じる）

個人個人が上げた作品（個人個人の選出基準による。）

A (K・N) K (K) O (A)

N (N・K・T) S (N・A)

O (K) S (K・T) M (T・A)

最終的に決定した作品とその理由（全員で検討の結果）

A—他の人とは違い時代に重点を置き、自分の考えをもち、感想文の書き方もよい。

N—自分の考えをうまく表現し、感想文の典型である。

S—特異なキャラクターで、自分独自の感想文をつくっている。

S—彼女の考え方自身に同感。文表現も悪くない。

以上の4編に決定した。

5 討議の反省

。どの作品も力作で、いざ選出するとなると大変困難である。

。班内でも考え方がそれぞれ違う人がいて、選出の際も自分の思考に合った人を選ぶので、それを調整する必要があった。

。最終的に決めるとなると、わりと全員の考えが一致して、容易に決定することができた。

資料 10

（原文よこ書き・問は省略—資料5参照）

「こころ」学習を終えて

4組2番 (T・A)

評点 4

1 新規購入

2 新潮文庫

3 近くの本屋で求めようとしたら、たまたまあったので。

4 以前に 0回 今度 2回

5 「三四郎」 同じ青春を描いているようだが、三四郎の方がずいぶん明るくておもしろかった。それで「こころ」にくらべて、この作品の方に興味をもった。

6 「友情」 武者小路実篤

「日本の歴史」?

7 課題としてなにかをつかみながら読まなければいけないと思っただけかあまり興味はもてなかったけど、授業で色々学習していくうちに作品の深さがわかってきた気がする。

8 いっぱいあると思う。たとえば、印象に残っているのは、人間が苦しみを負って生きるのと死ぬのではどちらが苦痛であるか。明治の精神。人間にとって愛というものは何なのか。いったい何をもちとも主張したかったのかまだつかめないし、ひょっとしたら全部いたかったのかもしれない。

9 「三四郎」のイメージから、私はあの主人公が作者自身のような気がしたため、大学の頂点である東大で学びずいぶんインテリな文化人だと思う。(しかし落語が好きだそうでなんとなく親しめる。)

10 あまり漱石の作品は読んでいないのでわからないけど、「わが輩は猫である」「草枕」「三四郎」「こころ」はそれぞれタイプが異なっていると思うので、他の作家の作品と比較するのはむづかしいけど、「こころ」に関しては、実篤の「友情」と比べて(テーマがにているから。)ずっと暗いイメージだ。

11 Kがなぜあっさり自殺したのか。(その深い原因)
何が先生を今になって死においやったのか、その決定的理由。

12 さびしい姫君、たまたまその本を読んでいたし、著者の北杜夫が好きだったから。

13 随分高度なのや、わかりやすいのやたくさんあって驚いた。私の感想は他の作品を引用しすぎて「こころ」についてくわしく書けなかったので、みなのようにすればよかったと思う。

14 ボールペン原紙の使い方に少しとまどった。

15 感想文を書くために本を読むのはなんとなくやりにくい気がするけど、後の授業の共通の教材として必要だし、グループ学習もなかなかいいと思う。

16 資料作成

17 失敗しないようにと心がけたのに、みんなに見てもらおうといつも間違いを見つけられてあまりうまくいかなかった。前回注意をうけたことや他の班のいいところをなるべくいかさうと思った。

18 とりかかりはどのグループよりも早いのだが深く学習していないために、他のグループの発表など聞いて学ぶ点が多かった。とてもみんなまじめだし、協力していたからやりやすかった。

19 中間考査のための勉強では得られないことも学んだような気がする。しかしこの勉強ぶりをどう先生が評価するのかはつきり点がないだけむづかしいと思う。今回のような学習は点数評価の対象にならないと思う。みんなが本気でやっていたらそれだけ身につけているのだから。

20 資料の書き方、字がへたでもそろえて書く。
日付などのつける場所。

どんな机のならば方がもっとも話しやすいか。

(山口県立下関南高等学校教諭)